# カトリック高松教区報

2006年11月5日（第114号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

## 協力宣教司牧を考える（下）

高松教区長　溝部　脩

前回「知恵を出し合って」福音宣教をということを書きました。そのために協力し合う態勢を考えるということでした。それを更に煮詰めて今回は具体的提案を致します。

協力ができるには、どうしても顔を合わせて話し合わなければなりません。それも何となく分かり合う「ア・ウン」の呼吸ではありません。きちんと向き合って計画をたて、それを実践していく話し合いです。そのために会合の時間、場所を当初より設定し、それに参加して積極的に意見を述べ合うことが大事になります。会合を積み重ねるにつれ問題が見えてきますし、その解決に向かって一歩も二歩も前進できます。

会合に際して三つのことを申しましょう。その一つは、会合を単なる会合にしないことです。「宣教は祈りから始まる」といわれていますが、それを実行しましょう。決まった祈りをするもよし、霊感による祈りもよいでしょう。大事なことは祈ることで意向を聖化し、神様からの働きに委ねることです。さもないと単なる人間の集まりになってしまいます。聖霊の働きに任せた人たちは大事な働きをします。同様に会議が行き詰まって身動きがとれなくなったら、皆さんで祈ってください。祈りは全てを可能にします。

二つ目は、会合に際してきちんと計画をたてることです。年間、月間の行事、教会内での働きを全部明らかにすることです。それにどのように参画し、協力できるかを話し合います。明らかにされていない活動や秘密裡で行われるものには報告を求める必要があります。協力宣教とは、活動は多種多様であっても、宣教司牧を一致して行うことを原則としています。そして、教会に属する全ての人々に、誰が何をしているかを明らかに提示する務めがあります。

三つ目は、会合は単に司祭のみのものであってはなりません。司祭、信徒、修道者の三つが合同で自分の教会と地域の宣教のことを考えるのです。責任を分かち合い、共に宣教をする態勢に持っていくことです。これらを通して「やってもらう体質」から「自ら行う体質」に変わっていく良い契機が与えられます。信徒の時代もこのような具体的、かつ身近なところから実施されていきます。

最後になりますが、協力宣教司牧が実現できるには、既成のものの見方に固執していては、それはできないということです。今までこうしていたという考え方をどうしても止めないといけません。高松教区はこれに踏み切ったのであって、この態勢に協力していくことが司教への従順であり、教会への従順と考えることです。

愛媛地区
教区民のつどいにて
（於：今治教会）

## 宣教は祈りから始まる

## はばたき

聖書は子どもをどのように扱っているか…

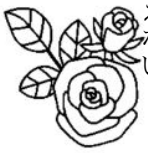
●わたしの名のゆえに、このような幼な子の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。（マル9・37）

●わたしを信じる、この小さな者の一人に罪を犯させる人は、その首にろばのひきうすをはめられ、海に投げ入れられたほうがましである。（マル9・42）

●幼な子たちが、わたしのもとに来るのを止めてはいけない。神の国は、このような人たちのものだからである。（マル10・14）

●あなたたちによく言っておく。幼な子のように、神の国を受け入れる者でなければ、けっしてそこに入ることはできない。（マル10・15）

最近の犯罪では、この子どもたちが対象の痛ましい事件が多いのはなぜだろう。わたしたちの祈りが足りないとしか思えない。



# 委員会報告

## 愛媛地区でもキリスト教講座開講

### 司祭評議会・宣教司牧評議会

九月五日に第七回司祭評議会、九月二二日に第四回宣教司牧評議会役員会が開催された。主な内容は次の通り。

１　生涯養成委員会では、六月から香川地区で講座を開講し、一三〇名ほどが受講している。一〇月からは、愛媛地区で「キリスト教講座」を開講する。現在、受講生を募集中である。徳島地区は、徳島教会創立一〇〇周年記念行事を終えてから予定している。高知地区は、独自で「教会」について学んでいる。全教区民に、福音を学ぶ機会を提供したいという、教区の願いがいよいよ実現することになる。

２　映画「アンゼラスの鐘」の前売り券販売は、目標の六〇〇枚を突破し（九月二二日現在）、何とか赤字を出さずに済みそうだ。「アンゼラスの鐘」上映は、平和学習の意味だけでなく、カトリックの枠を超えて、仏教界、プロテスタント諸教会と力を合わせて準備したこと、さらに県や市、報道諸機関からも後援を得、「開かれた教会」を実現できたことは意味深い。この関わりを「次に」繋げたい。

３　来年の一一月、一八八殉教者列福式が予定されている。高松教区からは各県五〇名、合計二〇〇名ほどの参加を呼びかけたい。

４　来年列福予定の一八八殉教者のなかに、徳島出身のディエゴ結城了雪神父がいる。この慶事を一過性の行事に終わらせないよう、生涯養成委員会が徳島県民と連携をとりながら、顕彰する道を模索する。

## 一生を通しての養成に取り組む

### 生涯養成委員会

委員長　Srメリー・ギリス

四月二六日の第一回目の委員会から活動を開始した委員会は現在まで六回の集まりを経て、少しずつ教区内の生涯養成について考えてきました。九月六日の委員会には、新しい委員に松永洋司神父様をお迎えしました。これからは、より充実した話し合いができると期待しています。

今までの議題は、主に次の三つでした。

①　昨年高松で行われたキリスト教講座のフォローアップとしての小グループによる講座

②　徳島、愛媛、高知でのキリスト教講座

③　「Nagasaki 1945　アンゼラスの鐘」上映

具体的に説明しますと

１　①については、高松での小グループによる講座内容はすでにホームページなどで報告されていますが、火曜日から金曜日までたくさんの方がカトリック会館を訪れるようになりました。六つの講座を併せますと延べ人数は約一三〇名です。

２　②については、愛媛地区の計画は一〇月一四日から実施するようになりました。基本的に昨年の香川地区のプログラムと同じ内容と講師で、月一回で土曜日に行います。しかし、日本の教会の歴史は「四国の教会の歩み」に限定し、岡本哲男神父様が担当します。プログラムの詳細は教区ホームページに載っていますので是非ご覧ください。

徳島地区は大きな行事を秋に控えているためにまだ具体的に話し合っていませんが、今年の後半から愛媛地区と同じ形で行うための検討が始まっています。二〇〇七年には殉教者ディエゴ結城了雪神父様の一生を知らせるための行事を徳島の方々と共に考えることになります。

高知地区は現在独自の研究会を実施しているために今年について生涯養成委員会の計画はありません。

３　③については、アニメ映画「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」を上映するため、桜町教会、番町教会、丸亀教会、聖マルチン病院の委員をはじめ、プロテスタント教会、仏教、平和に関心のある一般の人たちで構成された上映実行委員会を作り、上映に向かってたくさんの方々のご協力とご支援をいただいています。この活動を通してできた絆を大切にし、これからも教区の中で宗教を超えた協力を継続できることを願っています。特に、高松市で行われたWCRP世界大会ポストコングレスの宗教者会議の中で溝部司教様が「対話」を促進することを話されたのを受けて、映画上映で体験した連帯感を生かして行きたいと思います。

一一月発行の教区報には、映画の上映等に関する報告が間に

合いませんが、次回発行の教区報で、ご報告を申し上げます。

二〇〇七年に向かって、「生涯養成」の中の「生涯」に注目し、生まれた時から死ぬ時までの一生を通しての養成について考え、教区内の他の活動グループと連帯を強めて行きたいと思います。

## 第三三回教会学校教師研修会

### 青少年委員会

松山教会　渡部　恵

八月二六、二七日、愛媛県松山市道後「友輪荘」と道後教会を会場にして、「キリストの教えをどのように伝えるか」をテーマに、諏訪栄治郎神父様（高知地区モデラトール）に御指導頂き、教会学校、ボーイスカウト、ガールスカウトの各リーダー三一名が研修に励んだ。

現在までの各自の実践をｋｊ法でまとめ、様々なアイディアや子どもとの関わりを交換する研修から始まった。神父様からは、「み言葉」を伝える環境として、「沈黙」の時を持つ意義、「み言葉」を話者が理解し咀嚼して語る大切さ、ミサを子どもに分かる言葉で行う柔軟性、キャンプや日常生活の出来事を、「み言葉」に絡め経験として残す等、たくさんの方法論が紹介された。

そして、「キリストに聴き従う人になる」という目標を持つこと、「存在そのものが大事」な「わたし」を見出すこと、という講話のまとめが、私の心に深く残った。現在の私たちを取り巻く環境は、「神の国」を実現するには困難な状況と言える。その中で、未来ある子どもとどう関わり、どう育てるかは重要な課題である。研修で大きな宿題が出たように思う。宿題を少しずつやり始めなければ、そんな気持ちになっている。

研修会にて

## 高松教区青年の集い

日　時　2006年11月18日（土）午後３時～19日（日）午後３時

場　所　憩ヶ丘運動公園『芸西村の家』
〒781-5701　高知県安芸郡芸西村和食甲4525番地
TEL（0887）33－2894/FAX　33－3463
※高知市内から車で約50分。
土佐くろしお鉄道・和食（わじき）駅から約５分。
【高知駅―和食駅…快速40分、普通約55分】
高知空港から車で約25分。

参加費　4000円（食費・宿泊費含む）
泊まりなし…2000円

持ち物　体育館シューズ、筆記用具、健康保険証
他各自宿泊に必要なもの
※プログラムの中に自然散策を盛り込む予定です。動きやすい服装・歩きやすい靴などをご用意下さい。
また、朝夕は特に冷え込むと思いますので、各自寒さ対策をお願いします。

申し込み先
中島町教会　田本晋吾
E-mail　shingo0214@hotmail.com
住所 〒782－0051
高知県香美市土佐山田町楠目462－２
ウィンドワードハウス202号室
※氏名・所属教会・連絡先・参加形態（両日とも参加・１日のみ参加など）を必ずお伝え下さい。

問い合わせ　Br.八木信彦
TEL(088)872－3672

締め切り　11月８日（水）※厳守のこと

### 日程

11月18日（土）
15:00 集合・受付
体育館にてレクリエーション
17:00 オリエンテーション
自己紹介
18:00 食　事
入　浴
自由時間
20:00 司教様のお話
分かち合い
夕の祈り
23:00 解　散
自由時間
1:00 終　了

11月19日（日）
8:00 朝の祈り
8:15 朝　食
9:00 司教様を囲んで話し合い
10:00 自然散策
食　事（頂上で）
12:30 ミサ準備
13:00 ミ　サ
14:30 閉会式・記念撮影
15:00 終　了

# 各地区だより

## 二〇〇六 愛媛地区教区民のつどい
### ～県下の二百人が交流～

今治教会　新居田大作

去る九月一七日、今治教会で「愛媛地区教区民のつどい」が開催されました。

高松司教区から溝部脩司教様はじめ、ブラザー八木信彦様、岩手県の盛岡教会から渡辺真・陽子ご夫妻をお迎えし、県下、九つの教会と各修道院から総勢二〇〇人を超す人が参加して、和やかな雰囲気の中で、熱心につどいの諸行事が進められました。

司教様の講話を拝聴する参加者

一〇時三〇分開会、愛媛地区信徒使徒職協議会の今泉芳純会長と今治教会主任司祭の村上康助神父様の挨拶に始まり、司教様の「ミサ」をテーマとして「感謝と典礼」についての講話を拝聴しました。

司教様は、教区の目標に添ってお話を進められ、ミサこそ一致のしるしであり、ミサこそ教区を一つにまとめる力であるとの視点からお話をされました。

80歳以上の高齢者を祝福する司教様

ミサについて、み言葉の部、聖体祭儀の部、聖体拝領の部と三つの部分について、解りやすく丁寧に確信をもってお話くださいました。

司教様は「徹底してミサを生きるということから小教区の一致が始まる」と述べられ、「主日のミサをどのように生きるか、どのように豊かなものにするか、主日のミサをとおして、私達が何を捧げるか、そして、何を持って出発するか、そんなことが解ってくれれば嬉しいと思う・・・・。」と結ばれました。

約一時間のお話でしたが、お話の全てが、私達にとって聞き漏らしてはならないことばかりでした。

昼食と交流をはさんで、午後からは、ブラザー八木信彦様からＶＴＲを使って「高松教区子どものつどい」の報告があり、続いて「今治教会のステンドグラスの説明」を、今治教会の村上康助神父様が、一二枚のステンドグラスをパンフレットによって解説してくださいました。

つどいの最後、司教ミサは「入祭の歌、ひとつになろう」に始まり、全員一致してミサを捧げることができました。

司教司式ミサ

台風一三号が接近中で心配されましたが、影響も少なく、予定どおり進めることが出来ました。郡中教会担当司祭ハビエル・レチョン神父様と今治教会信徒会の山本富也会長からの挨拶で閉会、解散となり、一同、和やかな交流と豊かな研修が出来たことに、感謝しながら帰路につきました。

# 楽しかった子ども祭り
## 中島町・江ノ口日曜学校が合同開催

中島町教会　横田万里

八月二〇日ミサ後に、江ノ口教会で、子ども祭りが行われました。この子ども祭りは中島町・江ノ口両教会の日曜学校が行事として行う合同の催し物です。

私も主人と、孫を連れて出席しました。すでに中島町教会からも来ており沢山の人がはまゆう会館に集まっていました。玄関には靴の脱ぐ場所もない状態でした。

子どもたちは、宮本さんのご指導に従って、「くじ」を引いてお菓子を沢山もらって喜んでいました。松本英子さんのお世話で可愛いゴム人形に、輪投げをして、入った、はずれたと周りの子どもたちも一喜一憂をしてとても賑やかでした。

廊下では、Br八木のお手伝いでボールを、とらの形をした板の大きな口に、投げ入れるゲームをしていました。孫も頑張って五回投げてお菓子をもらっていました。

朝早くから、お父さん、お母さん、お兄さん方の奉仕で、手打ちうどん、焼きそば、おにぎり、お寿司、焼き肉などがあり、おまけにかき氷まであり、孫たちもよく食べていました。

また、日頃はお目にかからない遠方の方にも珍しく顔を合わすこともできました。これもきっと夏休みであったためだろうと思います。子どもたちのため、ひいては大人たちの親睦のためにも、これからも、この行事がいつまでも続くことを祈っております。

輪投げに興じる子どもたち　はいるかな？

# 御聖堂の花

鳴門教会　喜多早苗

昨年、私たち鳴門教会の信徒の方達が、五島列島へ巡礼に出かけました。たくさんの教会を巡礼し、島の風景に溶け込む静かな教会のたたずまいに感激したそうですが、同時にどの教会を訪問しても、季節の花々が祭壇をとりまくように飾られていて、訪れる人達をやさしく迎えて下さったと言っていました。

五島の人々が、家庭の花壇で丹精こめて花を作られているのが想像できました。

いつもいつもお花で飾ることはできませんが、私たちの教会でも主祭壇、マリア様、ヨゼフ様、その月に亡くなられた方のお写真の四箇所に、土曜日ごとに女の人が当番でお花を生けています。

今年の九月に上田琴様が八七歳で、お好きな畑仕事をされているうちにお亡くなりになりました。琴様は何年もの間、畑の一角で花を作られ、息子様が、土曜日ごとに届けて下さいました。お庭の広い橋本様も多くの木々や草花を作っておられ、当番の方に「お花あるんえ」と尋ねて下さっています。

御聖堂のドアを開けるとコスモスが満開だったり、濃い緑の中に真っ赤の椿、梅雨どきの花菖蒲など、私たちは御聖堂にささげられた季節の花々にいやされながら、御ミサにあずかっています。

今日も、縞がや（ススキ）に女郎花、萩の花が届けられ、九月九日、重陽の日にふさわしくなりました。

重陽の日に

# マリッジ・エンカウンター（ＭＥ）に参加して

中島町教会　梶原早百合

今年八月二六日・二七日に中島町教会で行われたマリッジ・エンカウンターの集いでは、ご夫婦がにこやかに出迎えて下さった。マリッジ・エンカウンターの集いの中で、いくつかのテーマが出され、テーマに従って、夫婦それぞれが、相手に対して自分の考えや思う事を手紙風に書き留めた後、交換して見せ合った。それを読むことにおいて、夫妻がお互いに自分のことをそんな風に考えていたのというようなこともあり、驚いたり、納得したりしたものです。

つどいに参加されたMEの方々

近年、子どもたちも成人し、夫婦での時間はめっぽう増えた。それぞれに違う人格なんだから、考えることは違っていて当たり前とは思うが、そのことが、幾つも幾つも重なったりすると「あーしんど」と思って（きっと、お互いさまなのだが・・・・）しまう。何とか好意的にやり過ごせないものかと思っていた矢先、このマリッジ・エンカウンターの集いへのお誘いがあった。これは神さまのおぼし召しに違いないと思ったりしたので参加する事にした。参加して今、夫婦が交わす日常の会話の中で、相手に自分の想いを言葉で伝えるという事は、想いのほんの一部だったりする場合があることに気づいた。お互いの想いをきちんと理解する為には、もっと沢山の本音での話し合いや、相手を理解しようと思う気持ちが必要で、そうする事で考え方は違っても、より好意的に理解していけそうな気がする。参加した事で得た気持ちを少し暖めてみたいと思っている。

芸術の秋である。私は、割と展覧会やコンサートなどへ出掛けることが結構好きなのだが、このところ仕事と私事で随分と遠ざかってしまった。日常の雑事に追われて、気付いたときには行きたい催しが終わっていたりする場合が多い。それだけ日ごろ気持ちに余裕がない現れなんだろうと思う。

# ヴァチカン美術館特別展の思い出

ところで、今から１６年ほど前に、国立西洋美術館でヴァチカン美術館特別展が開催され、絶好の機会だからと観に行ったことがある。私は、いまでも海外へ出掛けたことが一度もない。その頃も、折角ヴァチカンの美術品が来るのだから、一部でも本物に触れたいという思いで出掛けたのである。そのときのチケットと図録が、多少染みが出来たりしているが、まだ手元にある。残念ながら、今だじっくりとこの図録さえ眺める余裕がない。

しかしながら、いつか必ず図録でなく現地まで行ってゆっくり眺めたいと思っている。

坂出教会　小野雅之

# 歌って踊って平和を語ろう！
## ～06阿波踊り in 徳島～

鳴門教会　木内雅和

二〇〇六年八月、今年もこのシーズンが来た。徳島県で夏一番のイベントと言えば阿波踊りである。この阿波踊り期間中に参加した人たちと、平和について語る時間を持つことができた。

一日目は、徳島・香川・高知・和歌山・大阪などから集まった参加者の顔合わせと自己紹介から始まり、夕食を食べてから全員で阿波踊りを見に行くことになった。

阿波踊りは、初めて見るのだと言う人もいて「迷子にならないように」などと話をしながら徳島教会から歩いて行った。阿波踊りの楽しみ方にはいくつかあり、一つは歩きながらあちらこちらで踊っているのを見て回るもの、もう一つは桟敷で座って見るもの、もう一つはにわか連と言って観光など踊りを見に来ている人たちが自由に踊って楽しめるものがある。今回はこれら全ての楽しみ方を経験し、参加した人たちは大いに楽しむことができた。

にわか連に参加しての舞
みんな元気に楽しく踊りました

諏訪神父様の熱のこもった講話

二日目は、徳島教会から場所を移し平和についての講話・話し合いが行われた。諏訪神父の講話では、自分たちの回りの裕福なことや贅沢をしている今でも、どこかで貧困や飢えに苦しんでいる人がいる。こういった人々の連鎖を断ち切って行かないと平和にはなっていかないと言うことを御自分の経験されたことからお話をしていただきました。

熱心に受講する参加者

次に和歌山で弁護士をしている石津さんに憲法九条についての話をしていただきました。憲法九条、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義、この三つはみんなも小学校などで習って知っていることだが、これを変えようと言う話があるのはニュースなどでも知っていると思う。恥ずかしい話僕は自分の中であまりピンと来ていなかった。知ってはいるが遙か昔の話で内容もあまり覚えていない現状で改憲と言われても、と言うのが本音であった。が、今回石津さんの話で憲法九条の本質をなぜ変えようと言う声が出ているのかがよくわかった。

今回の講話、話し合いは自分の知らないことや、気にとめていなかったこと、また、あまり考えたり話し合いをしなかったことなどを考えさせられて、とても有意義な時間を持つことが出来たような気がする。憲法の話は今の小・中・高校生や大学生や青年達にも聞いてもらいたいような話だった。

来年の阿波踊りの時期にまたこういった時間を持ちたいと思っているので興味のある方は是非どうぞ。

参加者全員での記念撮影
最前列中央が和歌山からお越しの
石津剛彦弁護士

お知らせコーナー

## 本の紹介

徳島県の高田芙美様が、“小さき者の祈り「魅せられて」”という詩集を自費出版されましたので紹介します。

詩集を一読された番町教会の主任司祭松永洋司様の評は「徳島教会所属の高田芙美さんが　詩集を上梓されました。私家版『魅せられて』です。読み終えて、八木重吉を想いました。それに、雅歌をも。イエスさまに出会い、イエスさまに魅せられた、ひとりの小さき者の魂の軌跡が謳歌されています。是非、ご一読を。」

なお、この本のお問い合わせは、下記にお願いします。

〒770-0922
徳島市鷹匠町2-17　高田芙美
TEL：088-653-0722

## カトリック通信講座

オリエンス宗教研究所カトリック通信講座から
２００６年１０月　新講座『生きること・ 死ぬこと』が開講される
というお知らせがありました。

〈お問い合わせ先〉
オリエンス宗教研究所　カトリック通信講座
〒156-0043
東京都世田谷区松原2-28-5
TEL：03-3322-7601
FAX：03-3325-5322

## 投稿記事募集

【字　数】原稿は３００字以内（写真歓迎）
【内　容】記事の内容は自由、ただし中傷・誹謗はご遠慮下さい。
～その他募集要領は高松教区報109号（2006年１月１日）に記載のとおり～
【投稿先】メール：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
郵　便：〒760-0074　高松市桜町１丁目８－９
カトリック高松司教区広報担当　宛
（TEL087-831-6659）
ＦＡＸ：087-833-1484

## 司 教 日 程

11月１日（水）　殉教者特別委員会
神学校合同委員会（東京）
11月２日（木）　常任司教委員会
カトリック新聞審議会（東京）
11月５日（日）　香川地区教区民の集い
11月７日（火）　司祭評議会
11月10～11日（金～土）
宮崎カリタス会勉強会（宮崎）
11月12日（日）　国際交流ミサ（桜町）
11月14～16日（火～木）
日韓司教交流会（韓国）
11月18～19日（土～日）
高松教区青年の集い
11月23日（木）　徳島教会１００周年記念
11月24日（金）　臨時司教会議（東京）
11月25～26日（土～日）
宣教司牧評議会
12月５日（火）　司祭評議会
12月７日（木）　常任司教委員会（東京）
12月10日（日）　松山教会堅信式
12月13日（水）　大阪管区司教の集まり（大阪）
12月14～15日（木～金）
司教勉強会（東京）
12月24日（日）　カテドラル・ミサ